

# JRC 部の全国大会出場が新聞掲載されました

【令和 3 年 9 月 29(水) 中日新聞朝刊 尾張版】

稲沢市祖父江町の杏和高校 JRC (青少年赤十字) 部が、来月 3 日にオンラインで開催される「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」に出場する。3 年ぶりの本選出場で、宮沢賢治の「注文

の多い料理店」を演劇で披露し、自然や命の大切さを訴える。新型コロナウイルス禍で練習時間も限られた中、部員たちは「悲願の初優勝を」と運命の日を待つ。(牧野良実)

## 初心者ばかり杏和高 手話甲子園出場

杏和高校 JRC 部による手話を交えた演劇＝稲沢市祖父江町二侯の杏和高で

オンライン大会 来月 3 日結果発表



大会は、全国で初めて手話言語条例を制定した鳥取県で毎年開催。歌やダンス、演劇などを発表し、手話の正確性や表現力を競う。今年は、コロナ感染拡大のためオンラインで実施。予選の動画審査は七月末に結果が発表され、全国から出場した五十三チームのうち十五チームが本選進出を決めた。部員十人は、ほとんどが手話の未経験者。入部当初は「あいうえ

# 「あいうえお」から V 狙う

お」から形を覚え、地道に取り組んできた。文法が日本語と違うため、演技しながら手話を使うのも難しいという。同校の手話通訳士や岐阜県内のろう劇団から指導を受けて作品を仕上げた。

今年さらには、演劇経験者の外部講師を招いて基礎を学び、課題だった演技力に磨きをかけた。顧問の森雅子さんが「感情が入るようになり、せりふの間も良くなった」と手紙を語るように、予選は全国で二番目に高い得点を獲得した。

初優勝へ意気込んでいたところ、八月下旬から県内に緊急事態宣言が発令。練習は平日が最大九十分に短縮され、土日はできなくなった。主人公の若い紳士役を務める二年生の菊地由芽さん(こは)は「練習が思うようにできず、悔いが残る部分もある」と振り返る。それでも、練習前の準備を手分けして早く終えるなどして時間を捻出。本選用の動画は既に提出しており、二年生の赤松沙哉さん(あきは)は「結果は不安だけど、質は予選の時から格段に上がった」と自信を見せる。

本選当日は学校に集まって結果発表を待つ。三年生で唯一参加し、裏方として後輩たちを支えた白井亜梨紗さん(あきは)は「自分たちは出られなかったのですが、全国に出られるだけでもうれしい。レベルもすごく高いから大丈夫」とエールを送った。

本選の様子は午前九時半から大会ホームページで配信され、同校は午後零時半すぎから出演する。